



新年あけまして
おめでとうございます
皆様が健やかで
幸せでありますよう
お祈りいたします
本年も、うちこ福祉館を
ご利用くださいますよう
お願い申し上げます

館長 仲岡由紀子
職員一同

うちこ福祉館だより

令和2年
1月発行
電話・FAX
44-3410



十一月八日(金)の前夜祭では、大洲高等学校 繁榊義一先生による「ゆっくりファイト」と題しての人権コンサートを行いました。歌われた曲の歌詞に込められた思いやその時代の差別問題に触れたり、人の尊厳や、人権は希望の文化であると話されました。

第11回
福祉館まつり



考えよう
人の気持ちと
自分の行動

人権標語 最優秀賞
内子中学校2年
鈴木日捺 さん



人権ポスター 最優秀賞
内子中学校2年
武知里紗 さん



九日(土)はバザー、内子高校によるフクサポ、スタンプラリーなどのイベント、手作り品販売、各種作品展示、人権標語・ポスター表彰式などを行いました。



屋内展示だけでなく、屋外のバザーコーナーも大盛況でした。

福祉館まつりは、ボランティアの方々をはじめ、近隣自治会、わくわく広場管理委員会、館利用団体や個人ほか、書ききれないほど多方面よりご協力いただいております。心より感謝申し上げます。また、前夜祭・当日とご来場いただいた皆さん、ありがとうございました。



完成した人権パネル

うちこ人権集会 大瀬地区人権まつり

メインテーマ：
語り合おう人権、私がつくる笑顔の集い

十月二十七日(日)、内子中学校体育館にて、うちこ人権集会が開催されました。中学生三名による人権作文・メッセージ発表や、インターネットでの人権侵害や実体験を基にした人権劇の上演をおおして、参加者全員で身近な所に潜む人権問題について学びました。

スローガン：
「一人ひとりの個性
一人ひとりの笑顔
一人ひとりの未来」



人権劇の一場面

十二月八日(日)、大瀬中学校体育館にて第三十三回大瀬地区人権まつりが開催されました。標語発表、人権問題について思いを発表する「私の主張」、内子高校による人権クイズ、高齢者の人権に焦点をあてた人権劇の上演などがありました。

全国隣保館長研修会

十一月二十一日(木)・二十二日(金)の二日間、鳥取県鳥取市で、第五十六回全国隣保館長研修会が開催されました。

全国隣保館連絡協議会顧問の川崎正明さんによる基調講演では、地域の課題を解決する枠組みを「地域共生社会」とし、地域に暮らす人たちが支え合い課題解決する力を再構築することであり、隣保館として、語り合おうとつろぎの場(ストレス解消)、社会との結びつきの場(情報交換)など五つの「場」を作ることとなること、公的な福祉サービスだけでは対応できない生活課題も、隣保館は「地域のおせっかい役」をやっている、と話されました。

続くシンポジウムでは、地域共生社会実現に向けた隣保館の可能性について、四名のシンポジストより様々な報告・提言がありました。

その中で、中央大学法学部教授 宮本太郎さんは「隣保館職員は、力をつけ成長する自分を楽しんでほしい。また人それ

ぞれ違う元気があり、その人に応じた元気を出せるよう導いてほしい。」と呼びかけられました。

NPO法人抱樸 理事長 奥田知志さんは、自立は健全な依存と捉え、断らない相談「伴走型支援」について、具体的な課題解決と繋がり続けることの二つが大切で、失敗しても解決できなくても繋がっていることが重要だと提案されました。普段は気さくに挨拶を交わすお隣さんで、いざというときは相談に乗ってくれる場所として、課題解決への取り組みを続けてほしいと話されました。

二日目は、第四分科会に参加し、隣保館を活かした自治体の取り組みを学びました。特に、香川県と県隣協、自治体、隣保館が実施する隣保館利用状況調査の取り組みでは、訪問によって配布・説明・回収を行い、直近の調査では回収率が八十五割であることなどが報告されました。

その後、自ら回収することで未回収先を把握でき、その中に表に出していない課題があるかもしれない等、活発な意見交換がされました。

第三回健康講座

日時：12月10日(火)
講話：免疫力アップで冬に備えよう
実習：体力増強の食事
講師：内子町管理栄養士 河野洋子さん

発酵無し豆腐パン、抹茶大福
白身魚のマスタードソース添え
さつまいもとキノコの甘辛煮
豚ミンチとレタスの生姜スープ



【お礼】 十二月一七日に行った館の年末大掃除には、館利用の皆さんにご協力いただきました。ありがとうございました。